

B枝は下垂したりねじれたりしない

C 細葉 葉や花は総て互生する

D 細葉 葉裏は銀白を呈す 新葉の側縁はの字状に裏側に巻込む 側脈は裏凸する〔キヌヤナギ節1〕

E側縁が裏巻きした新葉の中脈は毛多く地肌みえず 新枝の地肌は毛多く全くみえず

葉裏の毛はエゾノキヌヤナギより多い

(SGOHKTY,中部以西,護岸植栽)(小高木-低木;葉5細) 雌株なし【13キヌヤナギ】

新葉は表やや毛密生,毛は早落性;裏は銀白毛極密生

葉表は毛やや多数 無毛,中脈は密毛 微毛多散在,毛は次第に脱落する

葉裏は銀白毛極密生,中脈は全面銀白毛被う 微毛密生

葉表緑;裏銀白(毛の為に)

葉表は中脈凸だが後やや凹感あり,側脈やや凹,細脈透視

;裏は中脈凸,側脈凸(葉縁付近は平坦だが,中脈付近は明凸),細脈不透視

乾くと縁が裏に狭く強く反り巻込み,ひら鋸歯だが全縁に見える

葉は狭被針形,100-200mm,巾10-20mm;洋紙質

葉柄は毛密生 毛は次第に脱落 葉柄6-18mm

托葉は鋭鈍頭,曲広被針形,全縁(縁は裏に強く反る),裏密毛,表やや密毛;基部に腺なし-微少やや腺密集

新葉の側縁は裏側に強く巻き込み,裏中脈は毛に被われ地肌見えず(エゾノキヌヤナギとの比較)

新枝は毛密生,芽に密毛;新枝地肌は毛で被われ全く見えず(エゾノキヌヤナギとの比較) 小枝は太く毛密生,落毛箇所は黄褐色

(H;エゾノキヌヤナギに比べて,小枝が太く毛がより密なこと,冬芽が大きくて枝に密生していること,葉裏の毛が濃くて銀白の度の強いことなどで区別できる)(G;エゾノキヌヤナギにも枝太く,雄花序の密につくものがあり,その1型が栽培されたものとも考えられる)

(M55;キヌヤナギ類は同じユウラシア大陸でも東亜のものは毛が中脈に平行していて,欧州品<セイヨウキヌヤナギ*S. viminalis*>は毛が側脈に平行している)

E側縁が裏巻きした新葉の中脈の地肌はややみえる 新枝の地肌はみえる 葉裏の毛はキヌヤナギより少ない

(SGOHY,東北以北,川畔)(大低木-高木;葉5細)【12エゾノキヌヤナギ】

新葉は表やや多毛,毛は早落性;裏は銀白毛極密生 葉表は毛疎生 無毛,中脈は多毛 微毛散在

葉裏は銀白毛極密生 灰白毛密生(銀色毛が灰白に変わる),中脈は多毛 灰白微毛残る;裏絹毛はキヌヤナギより薄い

(毛は次第に脱落するので,同じステージでの比較がはっきりできず,区別は難しい)

葉表緑;裏銀白 灰緑(毛は灰白)

葉表は中脈凸だが後やや凹感あり,側脈やや凹-平坦,細脈やや透視

;裏は中脈凸,側脈凸(葉縁付近は平坦だが,中脈付近は明凸),細脈不透視

弧状鋸歯,葉縁は強く狭く裏に反り,全縁に見える

葉は被針-楕円状被針形,100-200mm,巾15-20mm

葉柄は毛密生 微毛残る 葉柄8-15mm

托葉は漸鋭頭,偏(曲)被針形,ほぼ全縁(縁は裏に強く反る),裏密毛,表やや多毛中脈明らか

;基部は腺なし-少数あり 陰葉で托葉大きい

新葉の側縁は強く裏に巻込み,裏中脈は地肌がやや見える(キヌヤナギとの違い)

新枝は毛密生,芽に密毛;毛は次第に脱落する;新枝地肌がやや見える(キヌヤナギとの違い)

(C;本種はキヌヤナギに酷似する。しかし枝および葉の銀白さの度が低いし,花穂もやや疎につくので区別される)

(Y;概観はオノエヤナギに似るので,葉裏を観察)(C;絹毛を除くと,葉形はオノエヤナギに似て,オノエヤナギの有毛型に見える)

(C;オノエヤナギとの雑種が出来やすいらしい。雑種らしくても,枝にも葉裏にも毛が生えていれば,エゾノキヌヤナギと同定している)

変品種:【チャボキヌヤナギf;(S0)植物体は小形,枝細い】ホソバキヌヤナギf;(S0)成葉は線形】